

ウイルス感染による子宮頸がんは
HPVワクチンで予防できます
小学校6年生～高校1年生相当の女性が
定期接種の対象です。

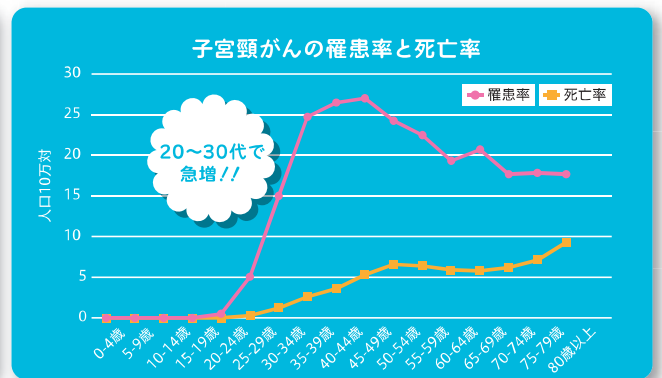
子宮頸がん^{けい}って、大人の病気だと思ってる 実は、若い世代も注意が必要なんだ。



●子宮頸がんに関するデータを見てみよう！



出典:厚生労働省HPVワクチンに関するリーフレット



出典:国立研究開発法人国立がん研究センター「がん種別統計情報 子宮頸部」/罹患率2020年、死亡率2020年

●いまのうちに知っておこう! 子宮頸がんの原因と予防策

Q 何が原因でがんになるの?

A 子宮頸がんの主な原因はHPV(ウイルス)感染です。感染してもほとんどの人はウイルスが自然に治癒しますが、感染が自然に治癒しなかった一部の方が、子宮頸部異形成とよばれる前がん病変を経て、数年後に子宮頸がんへ進行すると考えられています。

Q がんになるのって中高年以降じゃないの?

A 子宮頸がんは近年、20代～40代の女性で増加傾向にあります。性的接触のある女性であれば、50%以上の方が、生涯に一度はHPVに感染する可能性があります。

Q 気になる症状がないのにどうして受診が必要なの?

A がんはほとんどの場合、初期のうちは自覚症状がありません。そのため2年に1度の定期的な子宮頸がん検診が必要です。「若いから大丈夫」と思っているうちに発見が遅れ、がんが進行してしまうかもしれません。

HPVワクチンの定期接種の期間は **高校1年生の3月31日まで**です。

ワクチン接種は完了するまでに **約6か月かかります**。また、15歳になると接種は合計3回必要になりますので、接種を希望する方は、計画的なスケジュールでご検討ください。



厚生労働省

ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業
四国ブロック
作成:大阪医科薬科大学病院

詳しくは厚生労働省の
ホームページへ

厚生省 HPV 検索



HPVワクチン接種の流れ

1. 病院を選ぶ



希望するHPVワクチンの接種ができる医療機関を探しましょう。予防接種を行っている医療機関がわからない場合は、市区町村のホームページを検索してみてください。

市区町村名 HPV 予防接種 医療機関

検索

2. 予約を入れる



医療機関に連絡して、ワクチン接種の申し込みをしましょう。希望するワクチンの種類も必ず伝えてください。ワクチン接種予約票がない場合や、通知書に同封されていない場合は、病院に伝えておきましょう。

3. 病院に行く



病院に着いたら受付を済ませ、注意事項を確認の上、予約票に記入し体温を測りましょう。**※母子健康手帳と、予約票がある場合は持参してください。**

4. 医師の問診



医師による問診がありますので、もし他のワクチン接種の予定がある場合や、これまでワクチン接種をした後に体調に異常があった方は、必ずお伝えください。

5. ワクチン接種



ワクチンを接種します。通常は座った状態で腕の筋肉に注射しますが、横になって打つこともできますので、医師に相談してください。接種後は医師の指導のもと、安静に過ごします。**※ワクチン接種は合計2回または3回必要ですので、次回の接種日も考えておきましょう。**

ワクチンについて、よくあるご質問

Q HPVワクチンは痛いのですか？

A HPVワクチンは、筋肉注射という方法で接種します。接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。接種を受けた部分の痛み(疼痛)は、50%以上の頻度で発生するとされていますが、多くの場合は数日程度でおさまります。接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

その他のHPVワクチンに関するよくあるご質問は
厚労省HPのQ&Aページをご覧ください。



HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)シルガード®9※

1回目の接種が
14歳以下



1回目の接種が
15歳以上



※「シルガード®9(9価ワクチン)」で、
子宮頸がんの原因となるHPVの80%から90%を防ぐことができます。

1997年4月2日～2009年4月1日生まれ的女子で、
2024年度末までにHPVワクチンを1回以上受けた方へ。

公費による接種は2025年度末までです。

2回目・3回目のワクチンの接種を受ける場合は、接種のタイミングを計画的にご検討ください。

「子宮頸がん」を防ぐ+早く見つける！

HPVワクチン
接種



+

子宮頸がん
検診



かかりつけ医を持とう。

生理で気になることは産婦人科へ相談しよう。

HPVワクチンの定期接種を迷っている保護者の方へ。
HPVワクチンを接種すべきかどうか、保護者として難しい判断と感ずるかもしれません。将来かかるかもしれない病気のために、今起こるかもしれないリスクは避けたいと躊躇するのも当たり前のこと。大切なお子様の将来のために、HPVワクチンについて正しい情報を得て、ご家族もご本人も納得できる選択をしましょう。

詳しくは厚生労働省のホームページへ

厚労省 HPV

検索

